



ヒラメ 日本海中西部・
東シナ海系群
令和3年度資源評価結果

生物学的特性

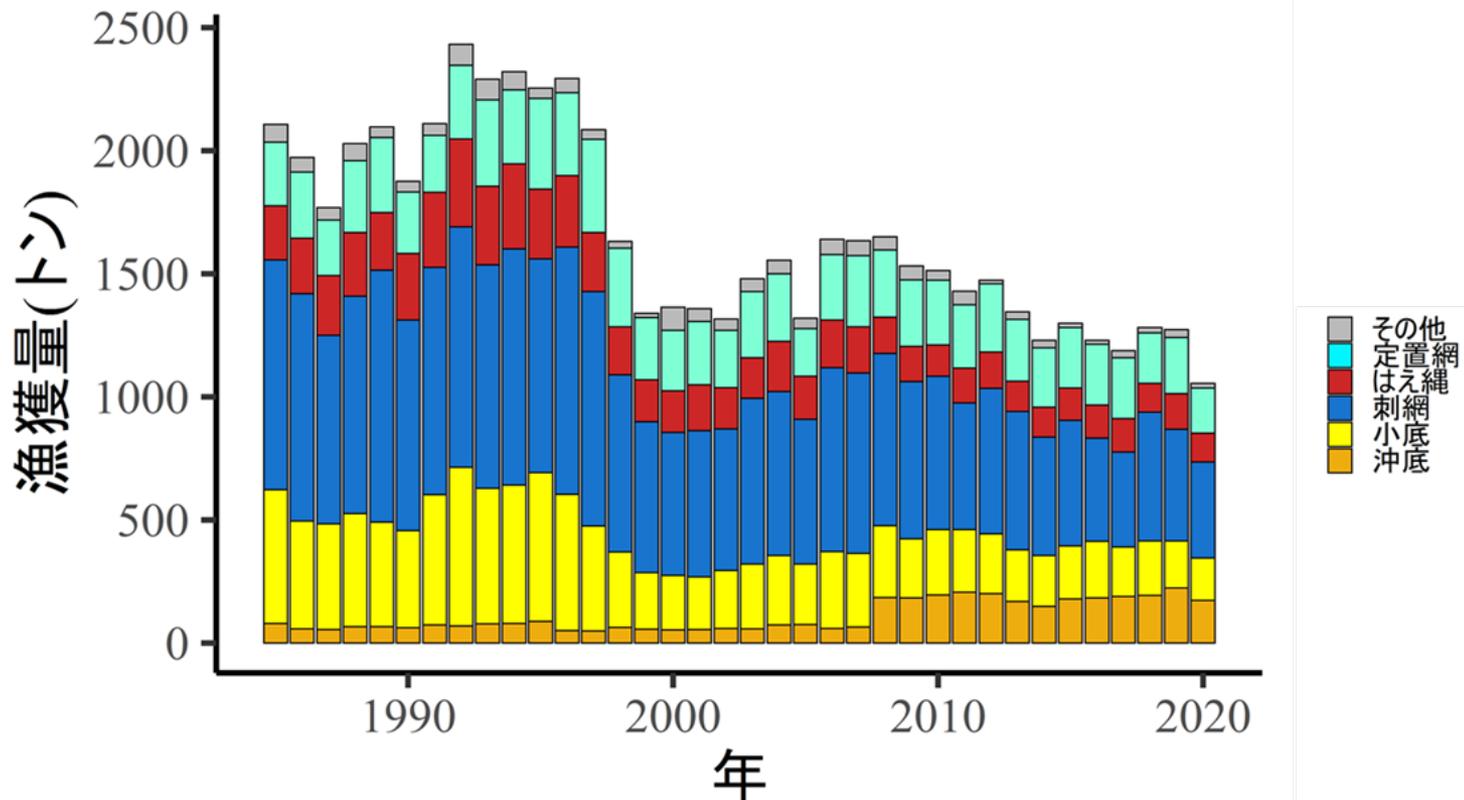


生物学的特性

- 寿命: 12歳
- 成熟開始年齢: 2歳(50%)~3歳(100%)
- 産卵期・産卵場:
鹿児島沿岸では1~3月
長崎から熊本沿岸では2~3月
北九州沿岸では2~4月
鳥取沿岸では3~4月
- 食性:
稚魚はアミ類や魚類の仔魚等
成魚は魚類、甲殻類、イカ類
- 捕食者:
ヒラメ、アイナメ、ホウボウ、
ハゼ類等

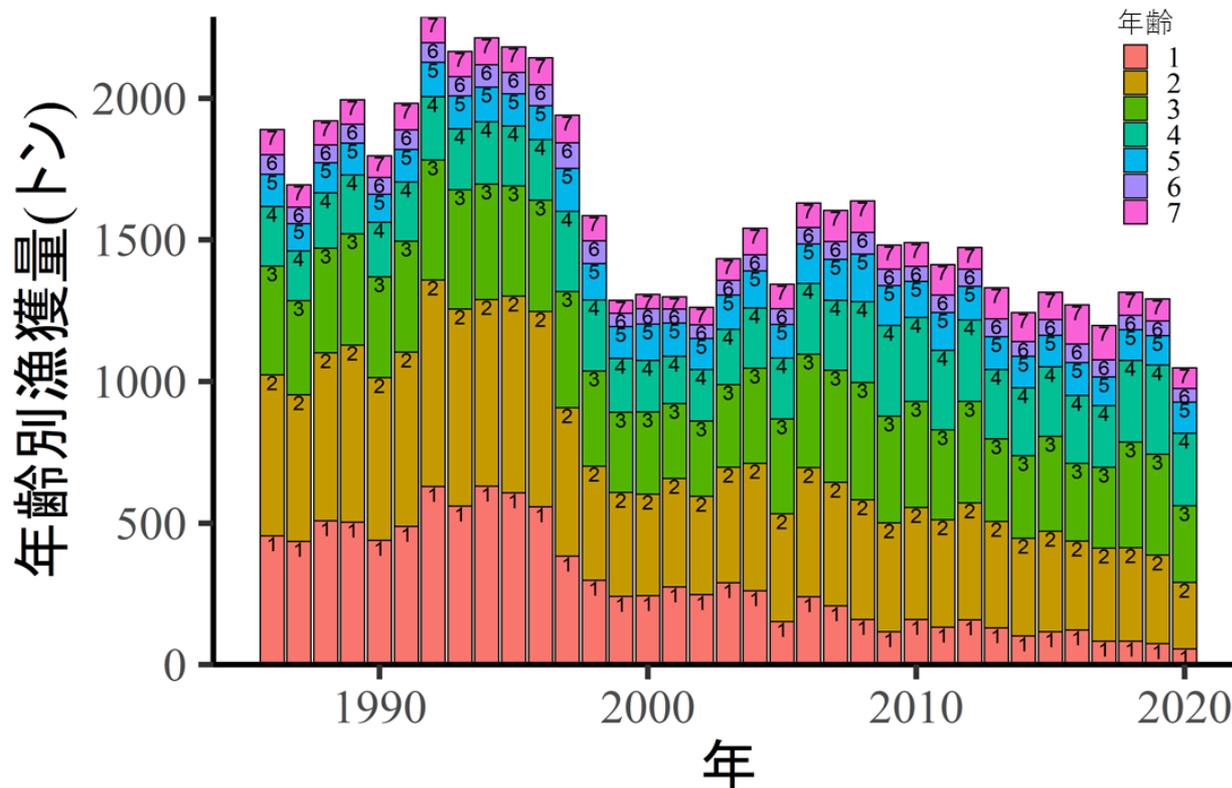
- ・ 幼魚は内湾及び河口域に分布し、成長とともに深い海域へ移動する

漁獲の動向①



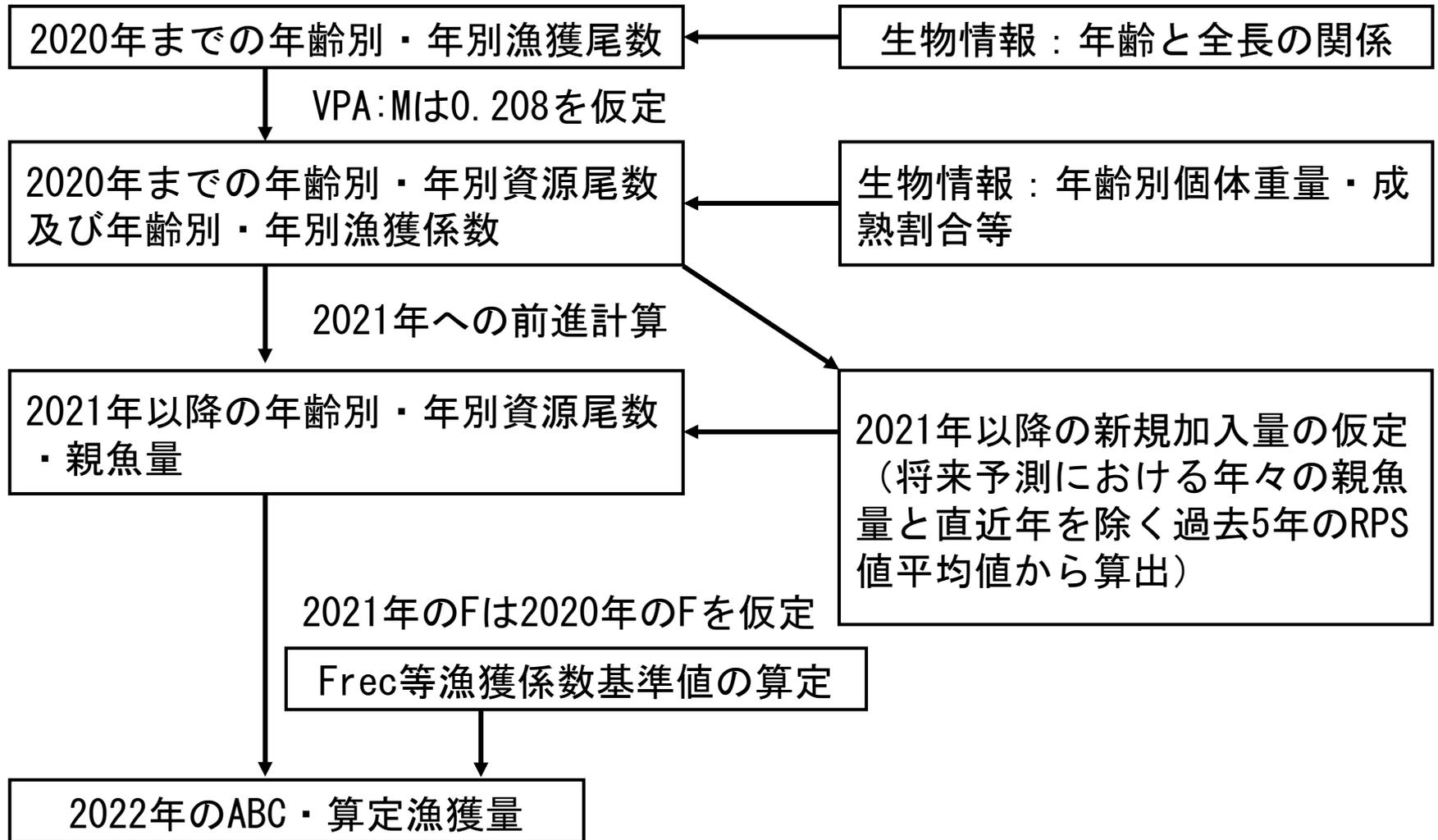
- 2020年の漁獲量：1,056トン（2019年：1,296トン）
- 刺網の割合が高く、次いで定置網、沖合底びき網、小型底びき網など多種多様な漁業種で漁獲されている
- 2020年の放流尾数：417.9万尾、混入率：14.4%、添加効率：0.03

漁獲の動向②

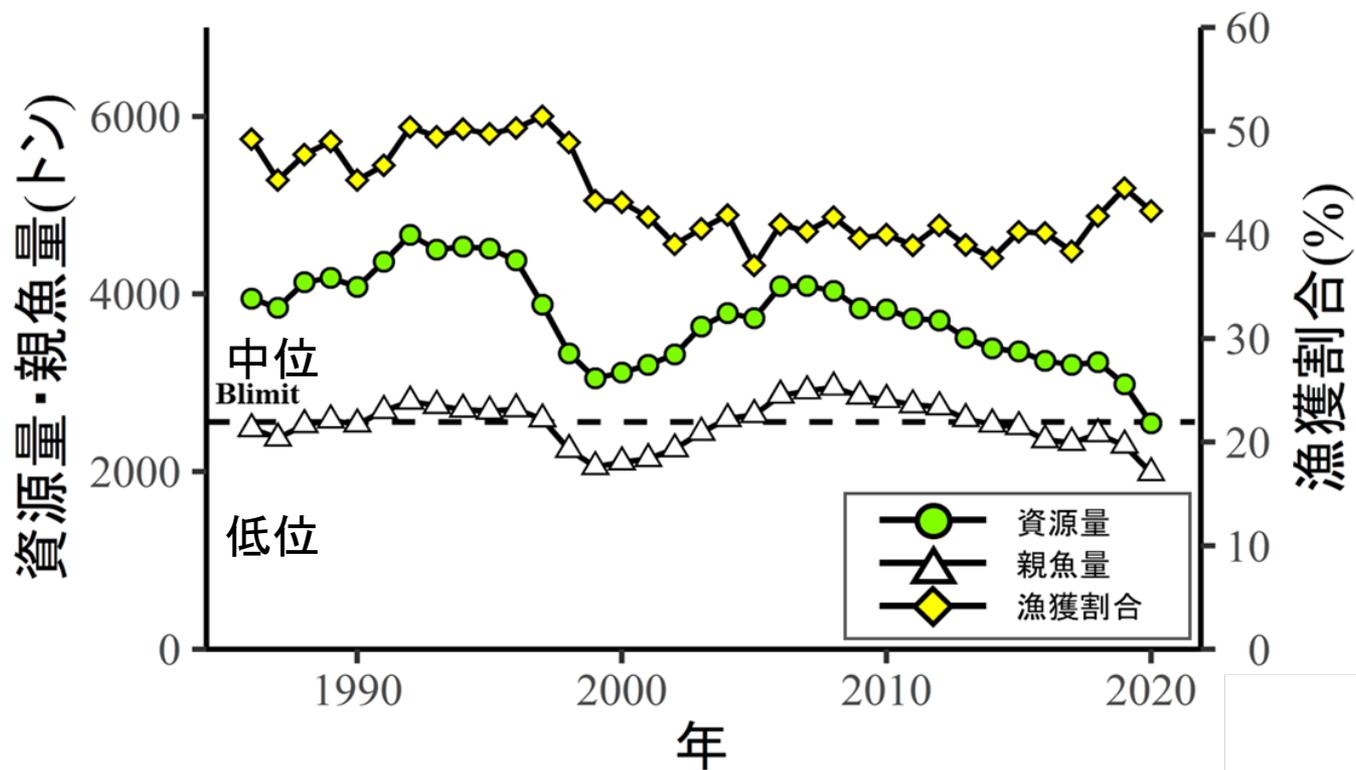


- 漁獲尾数は2～3歳が多い
- 0～2歳が占める割合は低下傾向にあり、近年は漁獲重量に占める割合が30%程度
- 成熟魚（3歳以上）の漁獲量の割合は増加傾向にあり、2020年は71.7%

資源評価の流れ



資源の動向①



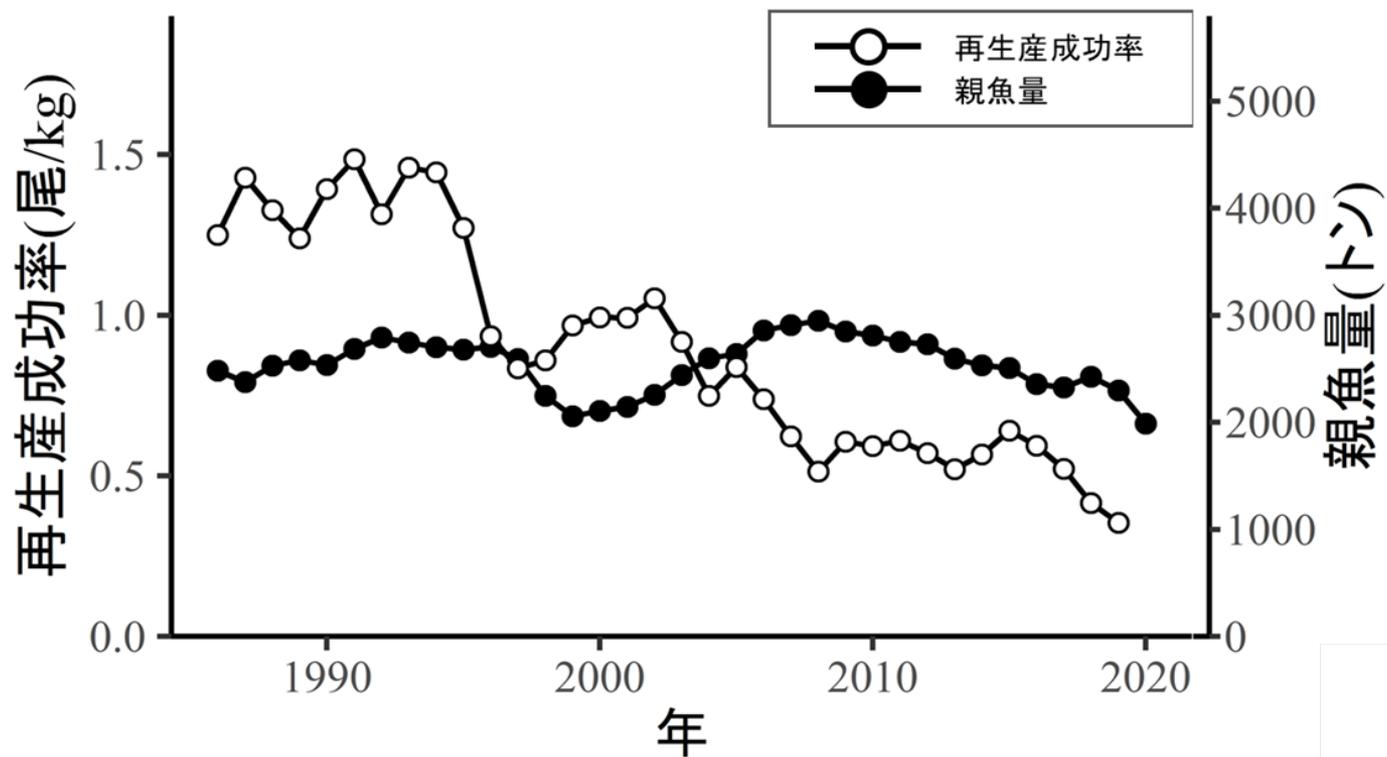
※水準区分 親魚量にて判断 低位/中位の境界は2,560トン(Blimit)
(親魚量の変動幅が非常に小さいため高位水準の設定は行っていない)

2020年資源量：2,547トン，親魚量：1,987トン

- 資源水準：2020年の親魚量から「低位」
- 資源動向：直近5年間の資源量の推移から「減少」

※Blimit：高い再生産成功率であれば高い加入量が得られる親魚量の閾値

資源の動向②



- 親魚量：2020年は1,987トンで1986年以降の最低値
- 再生産成功率：2003年以降減少傾向で、直近年の値は0.35尾/kg

資源評価のまとめ

- 資源水準は低位、動向は減少
- コホート解析による資源量に基づいて資源状態を判断した

2022年ABC

管理基準	Target/ Limit	2022年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
Frec	Target	539	24	0.30 (-48%)
	Limit	649	29	0.38 (-35%)

- Frec: 2027年までに目標水準への回復が十分期待できる漁獲圧